

富 噴井



《噴井》

画:小林功氏

北ノ窪子ども風土記

令和8年9月4日

小田原市立富水小学校

校長 鈴木 一彦

「当たり前の日常を大切に」

長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。朝の昇降口では、友達との再会を喜ぶ笑顔や、「おはようございます!」という明るい挨拶が響き、学校に活気が戻ってきたことをうれしく感じています。

今年の夏は、各地で自然災害が発生し、改めて「いつもの毎日」が決して当たり前ではないことを考えさせられました。子どもたちには9月1日の朝会で、「命を大切にすること」、そして「学校で友達と学び、遊び、笑い合える日常のありがたさを忘れず、一日一日を大切に過ごしてほしい」と話しました。



一方で、9月に入っても厳しい暑さが続いています。登下校時の熱中症対策として、地域の皆様による見守りや保護者の皆様の声かけなど、多くのご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。子どもたちも水筒の持参や冷感グッズの活用など、それぞれ工夫しながら登校しています。夏休み明けは、生活リズムを整えることに少し時間がかかる子どももいます。朝、「行ってらっしゃい」と笑顔で送り出していただくことが、子どもたちにとって大きな安心と励ましになります。ぜひ、子どもたちの背中をそっと押していただき、学校へ送り出していただければ幸いです。

「違いを認め合い、ともに学び、ともに育つ学校へ」

近年、社会では「多様性」や「共生社会」という言葉を耳にする機会が増えています。一人ひとりが異なる個性や考え方をもち、その違いを認め合いながら安心して生活できる社会をつくっていくことが、これまで以上に求められています。

学校もまた、そのような社会の入り口です。本校では、小田原市が進める支援教育の理念のもと、すべての子どもたちが安心して学び、自分らしく成長できる「インクルーシブな学校づくり」を進めています。

小田原のインクルーシブ教育

～個性や多様性を認め、伸ばす教育～

本質的な視点

神奈川県が目指すこと
支援教育の理念のもと、
共生社会の実現に向け、すべての子どもが、同じ場で共に学び共に育つこと

支援教育の理念
多様な子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに、適切に対応すること

みんなで学ぶ

多様な子どもたちが
同じ場で学び合う学校

その時点での教育的ニーズに
最も的確に応える 学びの場

特別支援学校 特別支援学級 通常の学級 通級指導教室 教育相談指導学級 校内支援室

少人数で学ぶ

個別で学ぶ

- ①授業内容がわかるか
 - ②学習活動に参加している
充実感・達成感をもてるか
 - ③充実した時間を過ごせるか
 - ④生きる力を身につけていけるか
- ※これらの視点から、その学びの場での目的をもちます
※授業以外でも、様々な場面で共に学ぶことができます

インクルーシブ教育は、単に同じ場所で学ぶことを目的とするものではありません。それぞれの子どもがもつ個性や特性、得意なことや苦手なことを認め合い、お互いを尊重しながら学び合う教育です。そして、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援や合理的配慮を行うことで、誰もが安心して学べる環境を整えていくことを大切にしています。

本校ではこれまで、交流及び共同学習の充実、子どもたち同士が自然に関わり合える環境づくり、すべての教職員による支援体制の充実に取り組んできました。また、「困っている人がいたら支える」「違いを認め合う」「誰もが居場所を感じられる」という意識を、日々の学校生活の中で育んでいます。子どもたちが将来生きていく社会は、多様な人々と協働しながら課題を解決していく社会です。だからこそ学校では、学力だけでなく、相手を理解しようとする心や、互いを尊重し支え合う力を育てることが大切だと考えています。

今年度も教育相談コーディネーターを中心に、子ども一人ひとりの思いや状況に寄り添いながら、必要な支援を必要なときに届けられるよう努めてまいります。保護者の皆様と学校が同じ方向を向き、子どもたちの成長を支えていくことが何より大切です。気になることや心配なことがありましたら、どうぞ遠慮なく担任や学校へご相談ください。

すべての子どもたちが「学校が楽しい」「自分は大切にされている」と感じられる学校をめざし、これからも取り組みを進めてまいります。今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

「よりよい学びの実現に向けて」

本校では、一人ひとりの子どもたちにとってより充実した学びの実現をめざし、令和6年度から「40分授業・午前中5時間制」を取り入れた教育課程を進めてまいりました。また、次期学習指導要領において導入が検討されている「調整授業時数」の考え方を先行的に研究する国の取組「サキドリ研究」に、本校が神奈川県教育委員会より指定を受け、全国に先駆けた実践研究校として取り組んでいることについては、春にもお伝えしたところです。その後、全国的にも子どもたちの学びの質を高めながら持続可能な学校づくりを進めていく動きが一層鮮明になっております。

こうした状況を踏まえ、本校でも夏季休業中に全職員でこれまでの取組を丁寧に振り返るとともに、さらに充実した教育活動へと発展させるための協議を重ねました。その中では、40分授業を基盤とした学習活動に加え、富水SSTの時間の設定、学年や子どもたちの実態に応じた柔軟な教育課程の編成、算数指導の充実、地域の特色や人材を生かした探究的な学習などが、本校の特色ある取組として大きな成果につながってきていることが確認されました。

一方で、「もっと子どもたちが主体的に学ぶためにはどうすればよいか」「より効果的な時間の活用はできないか」など、現状に満足することなく、さらなる改善のアイデアについても活発な議論が行われました。こうした職員の知恵と工夫を生かしながら、9月から新たなスタートを切っています。9月7日には県教育委員会・市教育委員会による視察があり、また9月8日には学校運営協議会において、本校の取組について地域の皆様とともに議論を深めてまいります。

調整授業時数を活用しながら、地域の特色や子どもたちの実態を生かした独自の教育課程を創り上げていくことは、子どもたちの学びの充実はもちろん、これからの時代に求められる持続可能な学校づくりにもつながるものと考えています。

本校は全国に先駆けた実践研究校としての責任と誇りをもちながら、「子どもたちにとって何が最善か」を常に問い続け、職員一丸となって教育活動の充実に取り組んでまいります。今後とも保護者・地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。